

1. 本校における自己点検・自己評価についての取り組み

学校の教職員で、4つのグループに分かれ、担当する評価項目について、（文部科学省ガイドライン準拠版）を用いて、自己点検・自己評価を行った。学校が評価した結果について、さらに学校関係者評価委員会の評価を受けて、改善すべき点の示唆や助言を受け、改善すべき点を明らかにして、学校の質保証・向上の推進をめざす。

2. 評価点（4段階評価）

- 4 適切に対応している。課題の発見に積極的で今後さらに向上させるための意欲がある。
- 3 ほぼ適切に対応しているが課題があり、改善方策への一層の取組みが期待される。
- 2 対応が十分でなく、やや不適切で課題が多い。課題の抽出と改善方策へ取組む必要がある。
- 1 全く対応をしておらず不適切。学校の方針から見直す必要がある。

	評価項目	令和5年度	令和6年度	
基準1	教育理念・目的・育成人材像	4	4	
基準2	学校運営	3.9	3.9	
基準3	教育活動	3.9	3.9	
基準4	学修成果	3.3	3.7	+0.4
基準5	学生支援	3.7	3.4	-0.4
基準6	教育環境	3.8	4	+0.2
基準7	学生の募集と受入れ	4	4	
基準8	財 務	3.8	4	+0.2
基準9	法令等の遵守	3.9	3.8	
基準10	社会貢献・地域貢献	3.7	3.7	

3. 自己評価での課題（評価点が低かった内容）

	評価項目	課 題
基準2	学校運営	DX化に取り組み、業務の効率化を図る
基準3	教育活動	教員の授業評価へのフィードバックが未実施である（授業参観）
基準4	学修成果	卒業生の社会的評価を把握しているか
基準5	学生支援	退学率の低減への取り組み、卒業生への支援体制の強化 「合理的配慮」具体的な支援体制の整備
基準9	法令の遵守	「合理的配慮」等の法令を遵守した取り組み
基準10	社会貢献・地域貢献	国際交流に取り組んでいるが未実施

4. 自己評価点及び概要

	評価項目	点	概 要
1	教育理念・目的・育成人材像	4.0	教育理念を実現するために、教育目的・目標を基盤に、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーを明文化し、基礎分野、専門基礎分野、専門分野の領域ごとにシラバスに掲げ教育計画を立案している。本校が目指す自立した看護師を育成するために、社会のニーズを踏まえた将来構想に関連する情報や医療現場で求められる人材や能力について、授業や実習等で学生や実習施設の指導者・外来講師等へ伝え、理解や協力を得ている。
2	学校運営	3.9	運営方針は『那覇看護専門学校事業計画』に明文化している。重点目標・事業計画を教職員に提示し、中間評価を行い進捗状況の確認と後期に向けての取り組みを行っている。教職員会議が意思決定の場であり、会議規程を定め、定例会議等を開催し、議事録は開催ごとに作成している。 業務の効率化を図るためにも、情報管理システムを継続し、計画的にメンテナンスおよびセキュリティ管理を適切に運営ができるよう取り組み、学務システムの DX 化を図る。
3	教育活動	3.9	新カリキュラムで履修した学生が卒業し、ディプロマポリシーに関する卒業生の自己評価アンケートは 4 段階評価で、20 項目の平均値は 3.59 であった。 教育課程は履修要綱（シラバス）で明確にし、講義、演習、校内実習においては協同学習やシミュレーション、校内実習では実習施設よりティーチングアシスタント（TA）の教育参加を行っている。授業評価は全教員が実施する体制は整えているが、フィードバック等が不十分で、振り返り（他者評価）の実施が課題である。全教員が、授業参観をすることで、フィードバックできる体制の構築が必要である。
4	学修成果	3.7	国家試験合格率 99.1%、就職率 100%と高水準を達成している。 卒業生の社会的評価について、卒後の実態を調査で把握することは十分にできていないため、今後は実態把握ができるよう計画を立案していく。
5	学生支援	3.4	学生の学業継続の相談に関しては、各学年担当教員や教務部長が面談、必要時、学校長、保護者も交えて面談を実施している。また、心理カウンセラーの活用の促がしやを行っている。しかし、中途退学率の低減にいたっておらず、中途退学者の要因分析を行い、支援の方法を検討する必要がある。また、「合理的配慮」について具体的な支援体制の整備を行う。 就職・進学に関する支援は事務職員が窓口となり、個別相談も対応している。 経済面的支援として、各奨学金の紹介や、個別相談に応じている。また、今年度から「那覇市医師会奨学金制度」を創設して、授業料免除等の支援を開始した。 課外活動の支援として、サークルマニュアルを整えることができた。
6	教育環境	4.0	防災・安全管理に関する組織体制は整備され適切運営されている。 施設・建物・設備の耐震化を確認し、エレベーターリニューアル工事を行った。学内における安全管理体制を整備し、適切に運用している。学生の生命と学校財産を守るための防犯体制を整備し、外来者の管理、記名と入館許可書着用をしている。
7	学生の募集と受入れ	4.0	高等学校の進路指導教員を招いた学校説明会を開催し教育活動等の情報提供を行っている。学校ホームページ内に学校紹介ブログのコーナーを開設し、学内の様子を伝えている。情報発信ツールとして若者に定着のあるInstagramも活用している。

8	財 務	4.0	中期的な教育目標（計画）の基、予算計画を立て安定した運営ができるよう、特にコスト管理においては、支出状況を把握し、項目別にコスト管理を行うよう努力している。監査法人による定期監査を実施し指導を受けて、財務情報は情報公開している。
9	法令の遵守	3.8	運営に必要な規則・規定等は、整備し運用している。ハラスメント等の防止規定は作成されているが、継続して教職員に対して、ハラスメント防止の研修を行う必要がある。また、「合理的配慮」の法令遵守の取り組みとして、具体的な支援体制の整備を行う。
10	社会貢献・地域貢献	3.7	臨地実習施設と学校の教育連携推進会議（ユニフィケーション会議）を開催している。オープンキャンパスや学校祭を通じて、高校生や地域の方々と交流をしている。また、学生会を中心にボランティア活動を行っている。ビーチクリーン活動として環境問題への貢献、実習施設や地域における災害訓練では、負傷者役として参加し貢献している。

4. ディプロマポリシーに関する卒業生の自己評価アンケート（4段階評価）

（足度評価指標）

1：ほとんど身についていない 2：あまり身についていない 3：よく身についている 4：かなり身についている

No.	評価項目	評価平均値
1	生命の尊厳と人権の意味を説明することができる	3.5
2	多様な価値観をもつ対象の思いに寄り添い倫理に基づいた行動をとることができる	3.6
3	身体的・精神的・社会的側面から統合された存在、生活者として捉えることができる	3.7
4	対象との信頼関係形成に必要なコミュニケーションを展開できる	3.7
5	その人らしい生活（暮らし）が営めるような関わり方ができる	3.7
6	健康状態に応じた状況や現象に気づくことができる	3.6
7	実践する看護の根拠について説明することができる	3.5
8	対象の持つ力を活かして実践することができる	3.6
9	自らの看護実践を振り返り評価することができる	3.6
10	対象を中心とした多職種との連携と協働のあり方について説明できる	3.6
11	多職種連携の場に参加することができる	3.5
12	看護職や多職種とコミュニケーションを通して関係性を築くことができる	3.6
13	多職種との情報交換やカンファレンスを通して多職種の役割を説明できる	3.6
14	自己の看護を振り返り、自己の課題に取り組むことができる	3.7
15	自己の看護観について説明できる	3.6
16	看護師として成長し学習し続けていく重要性について説明できる	3.7
17	多様な場における看護師としての役割について説明できる	3.7
18	沖縄県および地域医療の現状を知り地域で暮らす人々の健康生活について考えることができる	3.5
19	地域の多文化共生社会におけるグローバルヘルスの視点で健康課題について考えることができる	3.5
20	国内外の動向に関心を持つことの重要性について説明できる	3.4
	20 項目平均値	3.59